AIRDO CHANNEL

「AIRDO CHANNEL」ではAIRDOが力を注ぐさまざまな取り組みを隔月でお知らせします！

AIRDOは〈知床財団〉の活動を応援しています

～世界遺産・知床の自然を未来へ引き継ぐ～

AIRDOと共同制作した「トランクキット」。

知床半島の海岸線を歩くヒグマ。

電気柵による野生動物対策。

森林再生の作業風景。

〈公益財団法人知床財団〉は、1988年に設立されて以来、環境教育や普及啓発、野生生物の保護管理・調査研究、森づくりなどを行ってきました。約40名のスタッフが、知床の大自然を「知り・守り・伝える」ため、知床自然センター・羅臼ビジターセンター・知床五湖フィールドハウス・ルサフィールドハウスを拠点に、サポーターの方々と共に活動しています。AIRDOは2006年の女満別―羽田線就航を機に、ヒグマとの共存を図る自然保全活動「知床キムンカムイ・プロジェクト」を共同で実施し、当時制作した教育教材「トランクキット」はいまでも大切に活用されています。知床財団の現在の活動とAIRDOへの期待について、企画総務部長の岡本征史さんに伺いました。

知床の自然を知り、守り、伝える

2005年7月、世界自然遺産に登録された知床。アイヌ語で「大地の突端」を意味するこの小さな半島は、海、川、森の生態系を結ぶさまざまな命のつながりが絶妙なバランスで維持されている自然豊かな場所。その自然を「知り、守り、伝える」ことを柱とし活動しているのが知床財団です。野生動植物の調査や保護管理、知床国立公園を安全に楽しんでもらうための情報発信や政策提言、環境教育、森林再生など、事業は多岐にわたりますが、それらすべてに共通するのは、知床の自然の価値を守り次世代に引き継いでいくこと、そして、人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与していくことです。

知床の魅力は原生の自然が織りなす荘厳な景観と、狭いエリアにたくさんの命がひしめく多様性だと言っていいでしょう。一方で、狭いエリアゆえに人間と野生動物が近い距離で出合ってしまうことがあります。事実、2022年度の斜里町でのヒグマの目撃件数は1389件にのぼり、そのなかには重傷や死亡につながりかねない危険な事故も報告されています。人間の存在になれたヒグマは平気で人間の生活圏に入ってきたり、ひとたび人間の食べ物の味を覚えると、人につきまとうようになることもあります。そうなってしまったクマは残念ながら捕獲の対象になってしまうのです。

知床財団はヒグマが適正な個体群を維持しながら今後もずっと知床で暮らしていけることを願っています。そのためにも、知床を訪れる皆様にヒグマがどんな動物なのかを知っていただき、ルールを守って知床を楽しんでいただけるよう、普及活動にも積極的に取り組んでいます。AIRDOさんとはこれからも連携し、活動をご一緒できれば幸いです。

守っていただきたいルール

ヒグマに近づかない
エサをやらない
ゴミを捨てない

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

公益財団法人 知床財団
北海道斜里郡斜里町
大字遠音別村字岩宇別531番地
TEL：0152-26-7665
https://www.shiretoko.or.jp/